

目 次

まえがき	1
柴田 賢 (年代測定資料研究センター長)	
(1) 名古屋大学タンデトロン加速器質量分析計シンポジウム報告 「タンデトロン加速器質量分析計を用いた ¹⁴ C年代測定の 利用による火山噴火史研究の新展開」	
1. シンポジウム開催の主旨	4
中村俊夫 (年代セ)	
2. 名古屋大学タンデトロン加速器質量分析計の現状と 2号機導入計画	9
中村俊夫・池田晃子・太田友子 (年代セ) 柴田 賢 (理)	
3. 岐阜県美濃加茂一関付近における木曾川の流路変遷の時期	23
坂本 亨 (愛知県立大学) 鹿野勸次 (岐阜県立加茂高校) 中村俊夫 (年代セ)	
4. 水月湖湖底・年縞堆積物のAMS- ¹⁴ C年代	27
北川浩之 (国際日本文化研究センター) 中村俊夫 (年代セ) 福沢仁之 (東京都立大学理学部)	
5. 古土壌の加速器 ¹⁴ C年代による噴火年代の推定	43
奥野 充 (人間情報)	
6. 加速器 ¹⁴ C年代測定における試料調製の実際 ～始良一Tn火山灰の ¹⁴ C年代測定を素材として～	54
池田晃子 (年代セ)	
7. 愛知県作手村大野原湿原の広域火山灰	63
沢井 誠 (愛知県立犬山高等学校)	
8. 九州-大阪-房総にわたる広域火山灰の対比 -中部九州の今市火砕流堆積物・大阪層群アズキ火山灰・ 上総層群Ku6C火山灰の例-	70
鎌田浩毅 (地質調査所 近畿・中部地域地質センター) 檀原 徹 ((株)京都フィッシュン・トラック)	

林田 明 (同志社大学理工学研究所)

9. ルーマニア、Ciomadul火山の最終噴火とその¹⁴C年代 82
守屋以智雄 (金沢大学文学部)
奥野 充 (人間情報)
中村俊夫 (年代セ)
A.Szakacs (Inst. Geol. Geofi. Romania)
I. Seghedi (Inst. Geol. Geofi. Romania)
10. シンポジウム参加者名簿 92
- (2) 業績報告
1. 北海道北部、大沼周辺地域における完新世後半の泥炭地の拡大過程 93
大平明夫・海津正倫 (文)
2. 『今昔物語集』「鈴鹿本」の加速器質量分析法による¹⁴C年代測定 99
小田寛貴 (理)
中村俊夫 (年代セ)
古川路明 (理)
3. 名古屋市域における大気中メタン発生源の推定 118
森泉 純・永峰康一郎・飯田孝夫・池辺幸正 (工)
4. 日本産米の¹⁴C濃度の分析 128
山下浩司 (人間情報)
西澤邦秀 (アイソトープ総合センター)
5. 熱帯産樹種の樹木気候学的解析 138
米延仁志・葛原有紀子・木方洋二・渡辺 拓 (農)
スリ・ヌグロホ・マルスム (ガジャマダ大学林学部)
6. ツングースカイベントと樹木 147
米延仁志・竹中千里 (農)
7. 深海シロウリガイ群集堆積物間隙水の溶存無機炭素の¹⁴C濃度と硫酸還元 153
増澤敏行 (大気水圏科学研究所)

- 北川浩之 (国際日本文化研究センター)
 中塚 武・半田暢彦 (大気水圏科学研究所)
 中村俊夫 (年代セ)
8. バイカル湖の完新世段丘・・・・・・・・・・・・・・・・ 161
 藤井昭二 (藤井環境地質研究所)
 中村俊夫 (年代セ)
 V. Mats (ロシア科学アカデミーイルクーツク陸水研究所)
9. 南極リュツォ・ホルム湾東岸に分布する隆起海成堆積物の・・・ 167
¹⁴C年代の再検討・
 五十嵐厚夫 (東北大学理学部)
 原田尚美 (大気水圏科学研究所)
 沼波秀樹 (東京家政学院大学)
 土屋泰孝 (筑波大学下田臨海実験センター)
 福地光男 (国立極地研究所)
 斎藤常正 (東北大学理学部)
10. 東シベリア各地の永久凍土中の有機質年代測定・・・・・・・・ 178
 福田正己 (北海道大学低温科学研究所)
 長岡大輔 (北海道大学大学院地球環境研究科)
 西城 潔 (東北大学理学部)
 中村俊夫 (年代セ)
 V. クニツキー (ロシア科学アカデミー付属永久凍土研究所)
11. 湖底堆積物中の高分子脂肪酸の量的変化と古環境変動・・・・・・・・ 188
 トルコ・アナトリア高原のKestel湖から得られた
 柱状堆積物を対象に—
 西村弥亜 (東海大学海洋学部)
 北川浩之 (国際日本文化研究センター)
 三田村緒佐武 (大阪教育大学)
 中村俊夫 (年代セ)
 Aphmet, Yaintus (Faculty of Science, Ege University,
 Bornova, Izmar, Turkey)
 安田喜憲 (国際日本文化研究センター)
12. 名古屋市瑞穂区新瑞橋地下鉄工事現場の熱田層・・・・・・・・ 196
 諏訪 斎 (名古屋市立宮前小学校)
 森 忍・中村俊夫 (年代セ)
 木曾谷第四紀研究会
13. 加速器法による¹⁴C年代測定と花粉分析によるブナ・・・・・・・・ 201
 ミズナラ・ハンキ・エゾマツ移住の時代—南サハリンの泥炭堆積

とコナラ属、神仙沼の新しい針葉樹と川端のMpfa3直下の針葉樹、狩場山の'古いブナ'、石狩低地帯美々川の'新しいハンノキ'と南学田の'古いハンノキ'—

星野フサ(札幌静修高)
中村俊夫(年代セ)

14. タクラマカン沙漠南部の砂丘形成年代に関する考察 210
印牧もとこ・遠藤邦彦(日本大学文理学部)
中村俊夫(年代セ)
15. ケニア北部スグタ谷の段丘の年代と断層運動 217
植村善博(佛教大学文学部)
16. 現在の日本文化財科学に加えられる問題点 227
—今後の克服のために—
小田寛貴(理)
17. 加速器質量分析計との浅くて長いつき合い 232
古川路明(理)
18. タンデトロン加速器質量分析計による¹⁴C年代測定 234
中村俊夫(年代セ)
19. Radiocarbon dates of total organic carbon of the BDP 252
100-meter-long cores (BDP-93 Hole 1 and 2) from Lake Baikal
measured with a Tandetron AMS (Preliminary Results)
T. Nakamura, T. Ohta (DMRC)
T. Kawai (NIES)
- (3) 名古屋大学加速器質量分析計に係わる卒業論文及び 265
博士課程修了論文リスト